

論文要旨説明書

報告論文のタイトル：介護人材確保政策実現に向けたベンチマーキングからの示唆

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名 ：	吉田 俊之	所属 ：	慶應義塾大学院生
共著者 1 氏名 ：	新改 敬英	所属 ：	慶應義塾大学院生
共著者 2 氏名 ：	山田 隆史	所属 ：	慶應義塾大学院生
共著者 3 氏名 ：	岩本 隆	所属 ：	慶應義塾大学

論文要旨（800 字から 1200 字、英文の場合は 300 から 450 語）

日本国内ではこれからの高齢化社会における介護人材不足が社会的課題となっており、政府は、2025 年 250 万人の介護人材確保に向けた施策を発表した。具体的には、「促進参入」、「労働環境・処遇の改善」、「資質の向上」の面についての施策を提示しているが、施策の実現に向けた課題が山積である。従来の賃金-労働量の理論に固執した処遇改善政策への一方的依存では実現は難しい。また、多様化した介護労働市場ニーズに対応する必要もある。更に、他の産業に比べ介護サービス業に対するイメージの悪さが、雇用創出の重大な障壁と指摘する報告もある。事業者レベルをみても、労働市場の実情に応答した人事戦略の工夫は十分といえない。介護産業の離職率は 15% を超え、全産業平均より常に高い。このように、介護産業では、マクロ・ミクロに関わらず、労働供給不足が問題であり、介護業界の構造を転換するには、産業特性を見極めた介護人材確保・定着の新理論の開発が研究課題となっている。

そこで本稿では、先進的な成功事例を取り上げ、効果的な介護人材確保・定着を構成する要素を探索的に検討する。具体的には国内の優良介護事業者を選定しベンチマーキングを行った。雇用創出効果と定着促進の視点から、特徴ある取組みや考え方を抽出し、さらに、これらを効用の観点から統合し機能レベルにおける類型化を試みた。雇用創出の特徴的な取組みとして、従来の受け身型の就職説明会に代え「体験型学習」を取り入れていた。例えば、実際の介護職事例を用いたディスカッションである。介護イメージの変革では、小学生に入浴介護を体験させる例もあった。これらを踏まえ、雇用創出では、「体験型」で介護に対する理解を深める効用を求めようと、情報の非対称性を解消する機能を重視していた。人材定着では、介護職に限らないキャリアや等級制度を創設するなど、多様な将来キャリアの明確化とラダーの構築がみられた。すなわち、職務満足の向上を目指し、介護人材の潜在能力を拡大する選択肢を提供する機能を重視している。最後に、職歴の節目や等級に応じた研修会等を実施するなどして、組織と職員に対する信頼感を厚くするため、職員間・組織間の連携・協働機能を重視していた。効果的な雇用創出と定着を支える構成要素は、①早期からの体験型学習を通じた情報の非対称性の解消、②介護人材の潜在能力を拡大する選択肢の提供、③連携・協働、と考える。